

特別陳列 天神画像と文房具【前田育徳会尊經閣文庫分館】

古九谷・再興九谷名品選【古美術】



《胞輪天神図》前田育徳会蔵  
—「天神画像と文房具」より—

《色絵海老藻文平鉢》古九谷 —「古九谷・再興九谷名品選」より—

## 彫刻と人【近現代彫刻】

## 美術館でお花見【近現代工芸】

- 企画展topics 脇田和と猪熊弦一郎～モダンの展開～
- 2月の企画展示室
- 展覧会回顧 石川近代美術の100年
- 講演会記録 URUSHI 伝統と革新
- ミュージアムレポート 美術館で書き初め
- 3月の行事予定

## 学芸員の眼

道真忌の二月二十五日前後は受験シーズンにもあたることから、北野や太宰府、湯島など各地の天満宮に受験生が祈願する姿がしばしばニュースで取り上げられます。これは会計年度に合わせ、四月を新学期とした結果なのですが、改めて《荏柄天神縁起絵巻》を熟読しますと、その背後に深い必然性があるのではと、おののきつつも真剣に考えてしまいます。時代を超えて人々の様々な願いに寄り添う神としての天神は、日本文化に深い影響を与えています。江戸時代に文化によって幕府に対抗し、独自性を打ち出した加賀藩主・前田家の政策も、天神信仰を根幹としています。梅が見所を迎えるこの時期、受験生の健闘を祈りつつ、改めて菅原道真の生涯と北野社の造営、靈験にまつわるエピソードに思いを馳せるのも一興かもしれません。

今回は、下巻全巻が公開されている重文《荏柄天神縁起絵巻》について、少し詳しく紹介します。下巻は、在世中に右近の馬場に多年にわたって遊んだ天神が、非道の罪をかぶって配流された怒りや恨みも、かの地に遊ぶ時は心が慰められるとして、立ち寄るよすがを作るように、九四二年に綾子に託宣するところから始まります。託宣は続き、ついに北野社の造営が始まります。その間、内裏が三度炎上し、その再建材に「つくるともまたやけなむ菅原や むねのいたまのあはぬかざりは」との天神の怨歌が現れ、人々は慄然とします。

そして一条天皇の時代の九九三年に、天神に正二位・左大臣の官位が追贈され、菅原道真の子孫・菅原幹正が筑紫の安楽寺に参詣して位記を読み上げ、非

業の死から九十年目にして、ようやく道真の怨念が晴らされ、さらに翌年、正一位・太政大臣が追贈されました。続いて十二世紀初めの、無実の罪を晴らす神としての天神の靈験を伝えるエピソードが伝えられ、さらに北野社の社僧・西念の、天神への帰依による極楽往生や、継母に虐待された女が皇子を生んだ話が紹介されます。

このように《荏柄天神縁起絵巻》下巻には、様々な説話を交えて北野社の靈験が伝えられており、それが高位高官や高僧に偏っていない点が注目されます。そして、在世中に無念の思いに苦しみ抜いた菅原道真であればこそ、天神となつて庶民の様々な苦悩の訴えも聞き届けてくれるという天神信仰が形成されていった一端を、本作から知ることができます。

## 第4展示室

# 彫刻と人

2月15日(金)～3月21日(木・祝) 会期中無休

今回の特集、「彫刻と人」では、人物彫刻や胸像だけでなく、人の生活と彫刻の関わりについても紹介します。

戦後日本において都市デザインや街作りのひとつの柱として、公園、広場、街中などに彫刻を設置する動きが盛んになりました。当館の所在地である金沢市も例外ではなく、街中に彫刻が溢れています。例えば、香林坊交差点に郡順次《走れ！》や金沢駅前の三枝一将《やかん体。転倒する。》など、その場所のシンボルとなっているような作品のことで、人々の生活の中に彫刻が何気なく存在しているのがわかります。

野外彫刻や公共空間に設置する彫刻は、耐久性やメンテナンスなどの面から、素材に気をつけなければなりません。例えば、現在展示中で木戸修《スパイ

ラル・リング #3》は、螺旋のかたちそのものをテーマとした作品群の一つで、ステンレス鋼を素材としています。ステンレス鋼は強度が高く、腐食に強く、研磨すると周囲の景観を映し出す美しさを備えた材料です。木戸はこれを素材として公共・私的を問わず多くの空間に作品を設置しています。

木戸の製作活動において、螺旋のかたちそのものがテーマとなるのは一九八〇年代後半からです。この作品群は「数字によるデッサン」が必要不可欠で、現在はコンピュータでプログラミングをして、設計しています。

人物彫刻だけでなく、人の生活と彫刻という視点からも「彫刻と人」特集をお楽しみください。



木戸修《スパイラル・リング #3》

## 第2展示室

# 古九谷・再興九谷名品選

2月15日(金)～3月21日(木・祝) 会期中無休

第2展示室では、ほぼ常時古九谷を展示しています。第1展示室で雌雄の「雉香炉」を鑑賞して古九谷を見ますと、名状しがたい関連性を感じます。そのため、「雉香炉」は九谷焼であるとの誤解も招くようです。しかし、「雉香炉」を制作した野々村仁清を強くバックアップした加賀藩三代藩主・前田利常が、古九谷プロジェクトを推進したことを思い起こせば、両者に何らかの関連性を感じるのも当然かもしれません。

このように、前田利常の「好み」は江戸時代前期の美術工芸に大きな影響を与えています。そして、表現の独自性に対する飽くなき姿勢が、古九谷以後の加賀の色絵に継承されています。たとえば再興九谷の代表的な窯である吉田屋は、古九谷と混同されるこ

とが度々あります。特に写真では区別が困難な場合もあり、注意が必要と言えます。しかし、吉田屋は決して古九谷の模倣を制作することに終始したのではなく、明確な吉田屋の様式を打ち出しています。それは、最初の再興九谷である春日山窯をはじめ、再興九谷諸窯に共通する傾向とすることができそうです。

そして、再興九谷当時の文献から、古九谷と、古九谷を模倣した製品は愛好者によって明確に区別されていたことを知ることができます。しかし、それが明治時代以降曖昧になったという側面は否定できません。その点が、古九谷を論ずる際の大きな課題となっているのですが、本展のように、古九谷と再興九谷諸窯の優品を連続して見る機会を通して、本質的な相違点が見えてくるのではないのでしょうか。



《色絵花鳥図台鉢》古九谷

# 脇田和と猪熊弦一郎 ～モダンの展開～

4月20日(土)～6月9日(日) 会期中無休

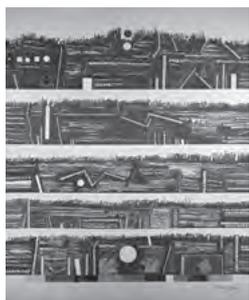
本展は当館所蔵の脇田和作品三二一点の中から八十点余りを精選し、脇田と最も親交の深い画家、猪熊弦一郎の作品二十四点を交えて、二人の創作の歩みをご覧いただくと共に、振幅の多い戦後美術界の動向を提示することを目的とするものです。

戦後の日本洋画界は、具象、抽象、前衛など転換が著しいのが特徴と言えます。それは美術評論家や、各地に誕生した美術館で活動する芸員の発言力が強まっていったことと深く関わっています。描画技術が確かで具体的な作品はあまり顧みられず、表現意図が重視されるようになっていきました。その中で、脇田と猪熊は前者の具象・半具象画家ですが、高く評価され、国際的に活躍しました。

猪熊弦一郎は明治三十五年香川県高松市生まれ。

東京美術学校で藤島武二に師事しました。大正十五年、帝展に初入選し、以後、第十回、第十四回で特選を得ます。昭和十一年、帝展改組の美術界混乱期に小磯良平、伊勢正義、脇田和らと新制作派協会(現・新制作協会)を設立。その後フランスに留学し、マチスに師事。戦後、二十六年には上野駅コンコースに大壁画を描き、その後も建築物と関わる制作を数多く手がけています。三十年から五十年までニューヨークを制作の場とし、帰国後も精力的に創作を続けました。

展示は二部構成で、一部では脇田と猪熊の作品を十年単位に併置し、二人の個性あふれる創作の歩みを、第二部では脇田の初期から晩期まで、詩情あふれる作品の展開をご堪能いただきます。



猪熊弦一郎《風景PB》1974年  
香川県立ミュージアム蔵

# 美術館でお花見【近現代工芸】

2月15日(金)～3月21日(木・祝) 会期中無休

二月から引き続き、第5展示室では「美術館でお花見」と題して、四季折々の花をモチーフとした工芸作品の数々をご覧いただけます。今回はそのなかから一点をご紹介します。

米沢弘安《氈鹿文鉄打出菓子器》は、昭和三年(一九二八)に制作された作品で、鉄製、かぶせ蓋造の円形の菓子器です。蓋表の中央には、カモシカの母親と二匹の子どもたちが、鉄板を槌で打って模様を表す鉄打出と、象嵌の技法で表されています。そのカモシカの傍らには、県花であるクロユリ、そしてカモシカの親子を取り囲むように植物の文様が配されていま

す。これらの植物文様は、ミヤマリンドウ、コマクサ、シロウマアサツキ、ツガザクラの四種類で、すべて高山植物です。

実は本作品のデザインは、日本画家であり、白山の保全運動に熱心に取り組んだことでも知られる玉井敬泉によるものです。作者の米沢弘安は玉井敬泉と親交があり、自らも彼に日本画を学んでいました。

本作品のモチーフとなっている高山植物などは、普段あまり目にする機会が多くないかと思いますが、本展にお運びいただき、その愛らしい姿を堪能していただければと思います。



米沢弘安《氈鹿文鉄打出菓子器》

## 第7展示室

# 第42回 伝統九谷焼工芸展

3月8日(金)～17日(日) 会期中無休

昭和五十一年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼技術保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で、入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

◆観覧料／一般…三五〇円(二八〇円)

大学生…二八〇円(二二〇円)

高校生以下無料

※( )内は二十名以上の団体料金。当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

◆連絡先／能美市泉台町南十三番地

石川県九谷会館内

九谷焼技術保存会事務局

電話…〇七六一一五七一一〇二二五

## 第9展示室

# 石川県立金沢辰巳丘高等学校 第31回芸術コース美術専攻卒業作品展

3月1日(金)～3月3日(日) 会期中無休

本校芸術コース美術専攻は「美術系大学への進学に対応した実技力の育成」を目標に創立以来、美術・基本の定着と高い造形表現力の育成を行ってまいりました。卒業生は金沢美術工芸大学をはじめ全国の美術大学・芸術大学・教育系大学へと進学し、絵画、彫刻、工芸、デザイン、映像、アニメーション、美術教育界など、地元石川のみならず全国、さらには海外において美術文化や美術教育の担い手として活躍しております。この展覧会は、今年度卒業する二十名が日本画、油絵、彫刻、デザインの四つの専科での学習成果を展示するものです。この機会を通して、本校美術専攻生徒と本校美術教育の一層の成長、発展への励みにしたいと考えております。

◆入場無料

春の空にフワリと浮かぶ雲。タンポポの綿毛がフワフワと飛び、モンシロチョウがヒラヒラ舞う。夏の河岸では飛び交うホタルの群れ。頬をなでるこちよい風等を考えている時にふう(風)を思い付き、また全員が気持ち一致しました。

現状にあまえず、お互いに刺激を受け少しでも自由で新しい発想による絵画制作を目的とします。

抽象、具象を問わずそれぞれの視点や表現方法が個性豊かに現れることを願っております。ぜひこの機会にご覧いただきご指導いただければ幸いです。

◆入場無料

◆連絡先／江守マリ子 金沢市長町一丁目三一三二六

電話…〇七六一二二一一三五八八(自宅)

辰村浩子

電話…〇九〇一三二九七一一五三六一

玄土社の二〇一八年中の歩みをまとめた創作(抽象)四十三点、古典臨摹(写し)十八点をお目にかけます。

創作は自由にチャレンジ精神をもって、臨摹は古典に忠実に。この玄土社の基本姿勢はかわることなく今展で四十六回となります。表意文字である漢字、その古典の模写復元を試みることで本場の歴史が見えてきます。また一方では揺れ動き進化する抽象表現の愉しさ。どちらも私たちにとって欠くことのできないワークです。独自の活動をする在野のグループ玄土社ならではの古典と新しい表現の世界をご覧いただける好機会です。

◆入場無料

◆表立雲トクタイム

「玄土社収蔵・近代日本の書真跡展」

日時 三月十七日(日)午後一時三十分～三時

◆連絡先／玄土社本部(表)金沢市本多町一七一一五

電話…〇七六一二六三一三三七三〇

## 第8・9展示室

# '18玄土社書展

3月15日(金)～17日(日) 会期中無休

## 第8展示室

# 第3回 風の会

3月1日(金)～3月5日(火) 会期中無休

# 石川近代美術の100年

平成31年1月4日(金)～2月4日(月)

「石川近代美術の一〇〇年」と題した本展は、当館が収集してきた石川ゆかりの作家による近現代絵画・彫刻コレクションを活用した展覧会でした。現在当館の総所蔵数は三九〇五点あり、そのうち近現代の絵画(水彩素描・版画含む)、彫刻の二〇五一点の中から、石川の近代美術史を繙くにふさわしい作品を選んだものです。

今回の展観をとおして、明治の人々が欧化と国粹に揺れ動いたり、西洋化に否応なく順応したりと、維新の波に翻弄されながらも新しい時代を作っていった逞しい様子が浮き彫りとなりました。改めて明治という時代の面白さを実感した次第です。本展ではそのような時代背景への理解を深めていただくために、二十本ほど「近代美術コラム」を展示室内に掲示いたしました。「これが鑑賞の助けになりました」との声も聞くことができ、鑑賞の一助になったのであれば幸いです。その意味では一月二十六日(土)に開催した関連講演会「明治維新と加賀の美術工芸」は、金沢星稜大学の本康宏史教授による面白くて為になるお話が満載でした。こちらとあわせて展覧会をご覧いただいた方々は、本展の趣旨への理解が深まったのではないのでしょうか。

最後になりましたが、石川県立工業高等学校から、寄託品を含め六品の出品がありました。少数ながら、いずれも本展のエッセンスといえる作品で、本展に欠くことのできない作品群でした。開催に当たり協力をいただいた関係各位に感謝申し上げます。



## 「URUSHI 伝統と革新」展 記念講演会 記録抄

### 「近代漆芸のあゆみ」

講師：白石和己氏(工芸評論家、本展監修)

平成30年9月30日(日)開催

昨年開催された企画展会期中、白石氏をお招きした際の内容をまとめました。

日本伝統漆芸展の三十五周年を記念して、これからの漆芸の在り方を考えようという展覧会です。これから訪日客や、日本の文化を知ろうという方が多くなると思いますが、漆はやはり、日本文化の根底の、重要なファクターの一つだと思っております。外国に対して、それからもつと日本人に、漆がどういふものかを知ってもらいたい。とくに漆芸が、どれだけ時代にふさわしい表現をしてきたか、その結果として現代の作家があるというのを見てもらえればという希望であります。

第一章が「近代の名匠」。だいたい明治以降、戦前までの作家が中心です。第二章「無形文化財制度と日本工芸会」。これは世界になかった考え方で、形のないものを文化財として考える制度です。そこから人間国宝が生まれ、日本工芸会ができ、日本伝統工芸展が開催されるようになっていきました。そして第三章「日本伝統漆芸展へ」。三十五年前に漆だけの全国公募展を始めました。幅広く漆を知ってもらおうと。伝統工芸展は入選が難しいですから、もっと若い人に発表の機会を与えようということになったんです。初期の中心作家を紹介しています。それから最後の第四章「現在をつくる作家たち」。現在活躍する、伝統工芸展に入賞したひとまでを紹介しました。

漆というのは、すごく基礎があるものです。その上で作家が何か精神的なものを表現しようとしなければ、現代の漆芸とは認められない。古典に学びつつ、個性的なものを作る。これが現代の漆芸に見られる傾向です。

# 美術館で書き初め

平成31年1月4日(金)実施

新春の一月四日、二階のコレクション展示室受付前のロビーにて、書の展示に併せ開催されるイベント「美術館で書き初め」が行われました。この書き初めの開催は、今年で三年目。新春の企画展の鑑賞に来られた友の会会員の方はじめ、お正月を金沢で過ごされた観光客など、多数のお客様にご参加いただいています。今までご参加された方からの「書き初めは、また開催されますか?」というお問い合わせや、「去年参加して楽しかったから、今年も行かなきゃと思って…」とご参加くださる方もおり、密かに人気のイベントになりつつあります。

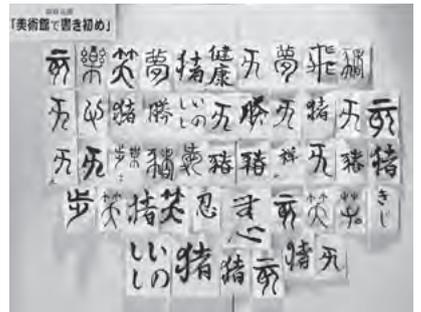
さて、日頃から書のお稽古に通っていらっしゃる方以外は、筆を持って字を書くことがあまりない時代になってきています。この書き初めでは、そのような日頃筆を持つ機会のない方にも、気軽にご参加いただけるようお手本を用意しています。その年の干支や「春」「夢」「笑」など新春の書き初めにふさわしい一文字をいくつかの書体の中からお選びいただけるようにしています。多くの方はそのお手本をお使いになっていますが、時々、お手本なしで自分の心にある文字をさらりと書かれる方もいらっしゃいます。久しぶりの筆を持つ活動に、参加を躊躇していた方も、やってみると「楽しかった」と満足そうにされる方が多く、また、納得できる一枚をと、何枚も書かれる方もいらっしゃいます。

このようなご参加くださる皆様のお声から、新春恒例の行事になった「美術館で書き初め」のイベント。ご興味ある方の、来年度のご参加をお待ち申し上げます。

## 3月の行事予定



「美術館で書き初め」会場の様子



完成した書き初め

9日(土)	「中国の茶書を読む4―『大観茶論』と徽宗皇帝その2―」 学芸専門員 村上尚子
2日(土)	「近代日本画と筆法」 学芸専門員 前多武志
10日(日)	「和紙の歴史について」 講師 湯山賢一氏(神奈川県立金沢文庫長)
16日(土)	展示室でお気に入りの作品を、磁気式ボードを使ってスケッチ!ご参加の方は観覧料を団体料金に割引します。
3日(日)	おとのさまの文房具つて、どんなもの? 自分たちの文房具と比べて鑑賞してみよう。 対象:小学生とその保護者 定員:当日先着20名
9日(土)	「和紙の歴史について」 講師 湯山賢一氏(神奈川県立金沢文庫長)
2日(土)	「近代日本画と筆法」 学芸専門員 前多武志
10日(日)	「和紙の歴史について」 講師 湯山賢一氏(神奈川県立金沢文庫長)
16日(土)	展示室でお気に入りの作品を、磁気式ボードを使ってスケッチ!ご参加の方は観覧料を団体料金に割引します。
3日(日)	おとのさまの文房具つて、どんなもの? 自分たちの文房具と比べて鑑賞してみよう。 対象:小学生とその保護者 定員:当日先着20名
9日(土)	「中国の茶書を読む4―『大観茶論』と徽宗皇帝その2―」 学芸専門員 村上尚子

# 脇田和と猪熊弦一郎 ~モダンの展開~

企画展Topics

会期:平成31年4月20日(土)~6月9日(日) 会期中無休



脇田和《潜水夫と魚》



脇田和《暖帯》



脇田和《子供と兎と花》



猪熊弦一郎《ニースの女》  
香川県立ミュージアム蔵



猪熊弦一郎《猫と子供》  
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵



猪熊弦一郎《飛ぶ日のよるこび》  
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵

## 次回の展覧会

平成31年4月20日(土)  
~6月9日(日)  
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	ご利用案内
	前田家の 刀剣・甲冑・陣羽織	春の優品選Ⅱ 茶道美術を中心に	
第5展示室	第3・4・6展示室	第7・8・9展示室	コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※( )内は団体料金 3月4日は第1月曜日により コレクション展示無料の日  3月の開館時間 午前9:30~午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00~午後7:00 年中無休  3月の休館日は 22日(金)~24日(日)
鳥とりどり 【近現代工芸】	春のいろどり 【近現代絵画・彫刻】	脇田和と猪熊弦一郎 ~モダンの展開~	

## 「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、  
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った  
知名度向上

県立美術館発行の  
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F  
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより  
第425号(毎月発行)  
2019年3月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel: 076(231)7580  
Fax: 076(224)9550  
URL: <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>